

骨関節症状、骨粗鬆症に関する検査についての経緯

骨粗鬆症とは、骨密度が低下し、骨折を生じやすくなった状態です。骨粗鬆症が進行すると、身長が縮みや、背中の曲がりを生じ、転倒などで骨折しやすくなります。

油症検診や油症外来を受診される方々の中に、骨関節症状が強い方がいらっしゃいますので、油症治療研究班では油症における骨関節症状、骨粗鬆症に関する調査をすすめてきました。

認定者1,257名に2005年10月より2006年7月まで行いました聞き取り調査では、705名の方にご回答をいただきました。

その結果、身長が縮みは46%、背中の痛みは72.6%、背中の曲がりや25%、転倒などでの骨折は18.2%に認め、70.4%の方が何らかの関節の痛みを訴えておられました。

さらに、血中PCDF〔油症の主なダイオキシン類〕の判明している307名の方々に解析を行いましたところ、PCDF濃度と身長が縮みや膝の痛みが相関しているという結果でした。

【その一部はすでに、2007年発行油症ニュース第3号でお知らせいたしました。】

これは重大なことですので、2007年度から骨密度検査を油症検診に加えさせていただき、どれくらいの方に骨密度の低下があるのか、そして骨密度とPCDF濃度が相関するかどうかを確認することにいたしました。

2007年度の骨密度検査では、女性の37.9%、男性の4.8%に骨粗鬆症が認められました。

【2009年発行油症ニュース第9号でお知らせいたしました。】

その後、骨粗鬆症の治療薬を飲んでおられるかどうかなどにつき詳細に聞き取り調査を行ったうえでさらに解析を行いました。

今回の油症班会議で発表されましたように、正確な情報が得られた204名の方で解析を行いましたところ、男女ともに血中PCDFが高いからといって骨密度が低いというわけではないという結果になりました。

この結果は、これまでの研究から考えると予想外のものでした。

なお、今回の調査では、骨密度治療薬を飲んでいらっしゃる方と飲んでいらっしゃらない方の血中PCDF濃度に意味のある差は認められませんでした。

骨密度は年齢と男女の別によって大きく変わる事が知られています。年齢が高いほど骨密度が低くなる傾向があり、この傾向は女性の方が男性より強い事が知られています。

一方、血中PCDF濃度も高齢になるほど高い傾向があります。

今回の発表結果はこのような互いの関係や男女の差を考慮に入れて解析されていますが、ある時間断面における測定値間の関連を調べたものです。

骨密度検査は、2008年度、2009年度、2010年度も継続されていますので、さらなる解析を行う予定です。

お知らせ

毎年油症研究班会議の直後に、班会議で議論された研究結果公表のため、マスコミの方々に記者会見を行ってまいりました。しかし発表内容も多く、記者会見の限られた時間内に正確な情報をお伝えすることが困難であると判断いたしました。まず患者さんへ正確な発表内容をお届けすることが第一と考え、この油症ニュースでその年の班会議での発表内容を公表することで、患者さんをはじめ、またマスコミの方々への正式発表としたいと考えております。要望があれば、その後マスコミの方々への記者会見を行います。

問い合わせ先：全国油症治療研究班 班長 古江 増隆（ふるえ ますたか）
〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1 九州大学医学部皮膚科教室
TEL 092-642-5582/FAX 092-642-5600